

令和5年度 大阪府芸術文化振興補助金、輝け！子どもパフォーマー事業補助金の審査について

2022年度より新体制となりました大阪府市文化振興会議アーツカウンシル部会(以下、「大阪アーツカウンシル」という。)は、1年間を通してできる限り標記の補助金採択事業の視察や事業者へのヒアリングを行い、大阪という地には、芸術や文化を支える文化芸術関係者の皆さまの熱い想いと活動があることを改めて再認識致しました。そして、この審査がいかに責任あるものかを審査員一同と共有した上で、審査会に臨ませて頂きました。

令和5年度「大阪府芸術文化振興補助金」では合計44件(うち新規は21件)の申請があり、12件(うち新規は3件)を採択しました。この補助金の趣旨は「府民に優れた芸術文化の鑑賞機会などを提供するもの」であるため、申請書に記載の芸術文化の内容が優れたものであるか審査しました。公表されている審査項目に基づき、「どのように芸術文化に触れる機会を効果的に提供するのか?」「将来の担い手をどのように育成するのか?」「学校や地域等の他機関との連携をどのように図るのか?」など、そのすばらしい文化芸術活動をどのように自立的かつ持続的に展開するための環境づくりを行っているのかを審査しました。

令和5年度「輝け！子どもパフォーマー事業補助金」では、合計32件(うち新規は13件)の申請があり、17件(うち新規は1件)を採択しました。この補助金の趣旨は「文化活動の発表を通じた子どもたちの感性、創造性、表現力の育成」であるため、子どもが自主的かつ主体的に関わる機会を提供する工夫があるか審査しました。申請された事業内容の中には、子どもが参加しなくとも実現可能な事業もありました。子どもの意思が十分に反映されずに運営されているような事業は、子どもが自主的かつ主体的に参加及び表現する機会を提供するための工夫がされているとは言えません。ぜひ、子どもたちとともに、事業内容を見直していただければと思います。

上記に述べた通り、大阪アーツカウンシルは、1年間でたくさんの文化芸術関係者の方々と出会い、すばらしい活動をされていることを認識しておりますが、実際にすばらしい活動をされていたとしても、申請書類において事業内容が具体的に説明されていないもの、事業の魅力が十分に伝わらないもの、また事業内容と収支計画に整合性がないものは、審査時に減点せざるを得ません。申請書の作成や、プレゼンテーションにおいては、活動の内容が正しく伝わるように取り組んでいただきたいと思います。

私たち大阪アーツカウンシルは、この審査を単なる補助金事業の採択の場だけでなく、大阪における文化芸術関係者の実態や課題の共有、制度そのものの検討を行う場と捉えています。本審査によって顕在化された課題などは、引き続き協議を重ねて適切に対応していくよう努めます。

今後も大阪アーツカウンシルの活動を通して、大阪における文化芸術関係者皆さまの活動を心より応援させて頂くとともに、芸術や文化の「架け橋」になることができるよう努めて参ります。

大阪アーツカウンシル統括責任者 宮崎優也